

## 学習成果報告

---

Charles Univ	Petra Kovacsova (ペトラ・コヴァーチョヴァー)
Charles Univ	Marketa Novotna (マルケータ・ノヴォトナー)
Chiang May Univ.	Pindhusenee ploychompoo (プーイチョンプー・ピョンデューセー)
Chiang May Univ.	Titima Tala (ティティマー・ターラー)
Dalian Univ of Technology	Wang Ying (オウエイ)
Dalian Univ of Technology	Zhu Yiping (シュイッペイ)
Busan Univ of Foreign Studies	Lee Hyeonho (イ・ヒョンホ)
Busan Univ of Foreign Studies	Lee Jungbin (イ・ジョンビン)
The Univ of Bonn	Alexander Tokarev (アレクサンダー・トカレフ)
The Univ of Bonn	Chelsea Anika Albus (チェルシー・アルブス)
The Univ of Warsaw	Agata Rosinska (アガタ・ロシニスカ)
The Univ of Warsaw	Dagmara Pomorska (ダグマラ・ポモルスカ)
Vassar College	Hayley Rothman (ヘイリー・ロスマン)
Vassar College	Olivia Hayashi-Groves (林美穂)



世界8大学合同国際学生フォーラムに参加できて、本当にありがとうございました。素晴らしい経験になった。

フォーラムに来る前に、それは日本に行く凄い機会だと思った。様々な国の人々と交流したり、エネルギーについて新しいことを学んだり、東京の色々な面白い場所へ行ったりすることができると思った。

言うまでもなく、私の期待に応じて、海外留学はとても楽しくて面白かった。フォーラムの参加者は親切な人だった。私は日本語が好きなので、色々な外国人の日本語を聞くことができ、とてもいい経験だった。

フォーラムは楽しかった。月曜日の防災館の訪問は忘れられない体験になった。火曜日のテレビ会議は面白かった。オタゴ大学のプレゼンテーションは全然知らなかったものなので、私にとって、その日の一番いいプレゼンテーションだった。水曜日に緊張した。グループの友達ももっと緊張してから、冷静な顔をした。結局、私たちの先生のおかげでよくできたと思う。皆のPPTはとても面白かった。木曜日は被災体験の聞き取りからの学生の報告だった。私は避難所と仮設住宅の生活の難しさを想像できなくて、とても感動した。次の講演会からもっと詳しいイメージを受け取った。金曜日の先生のプレゼンテーションは外国の大学に留学したいと思った。そして森山先生の言った通り、言語は文化とともに勉強するのは必要だと私は賛成する。

日本に着いてから、びっくりすることがあった。例えば、電車の来る前に日本人は駅に並ぶ。スロバキア人はそうしない。しかし一番驚いたのは東京の交通費だった。高すぎると思う。私は金曜日に来て、奨学金を火曜日まで貰えなくて、お金はちょっと問題になった。外国の学生に事前にそれについて忠告したほうがいいと思う。

なお東京の観光をできた。有名できれいな所をたくさん見た。残念なことに、富士山を見ることができなかった。でもその他には素晴らしい東京の写真を二千ぐらい撮った。とても楽しかった。

終わりに当たって、もう一度ありがたいという気持ちを述べたいと思う。フォーラムのおかげで原発問題の知識が深まって、特にもっと具体的に代替エネルギーに対する関心が高まった。私は日本に初めているので、その雰囲気体験できた。したがって私の日本の文化の興味が深まった。だからフォーラムに来させていただいて、感謝している。

世界8大学合同国際学生フォーラムに参加できるようになった時、とてもありがたいでした。フォーラムの参加者の一人になり、日本に来る機会を通じて日本文化を体験することはもちろん、現代の世界問題に関する知識を深める機会にもなるという期待がありました。「世界のエネルギー・環境問題を考える」というテーマを初めて見ると、日本学科の三年生に過ぎない私の知識が十分かどうか迷っていました。しかし、エコロジーとエネルギーに伴う世界の将来に関心があり、フォーラムで様々な国の人の意見を聞いて、色々なことを勉強になる機会ということはこのフォーラムの目的かもしれませんと思いました。それだけではなく、2011年に東日本大震災の出来事をテレビで見て、感動してたまらなく、被害者の状況うについてもっと詳しく調べるという意欲が生まれました。そこで、結局、今年のフォーラムに参加することにしました。

私の日本語能力限り、全世界の国のエネルギーシステムの一つとして、どんな発表がチェコのエネルギー状況と将来の方針を適切に説明するというを考えて始めてから、その話題の複雑さを現実しました。発表の準備をして、日本語の学問的な能力が高められたことばかりでなく、グローバルテーマを巡って科学者だけでなく、世界の皆が一人ひとり意識があってほしいという考えが浮かびました。

フォーラムが始まってから、来日前の期待と比較したら、今まで習ったことはずっと多いと言えます。水曜日のエネルギーに関するシンポジウムで様々な利用できるエ発電のタイプや世界の国のエネルギー状況と政治的な方針に関する知識は別として、それに伴う災害についても色々勉強になりました。特に月曜日の防災体験は地震のような災害がほとんど行わないチェコの人の私にとって非常に役に立つということだと思います。その体験のおかげ、東日本大震災の被害者の状況の理解が高まりました。それ以外 **Peace on Earth** というイベントやお茶の水女子大学の学生のワークショップや、それぞれの知識源から習ったことがこれからも深めるという意欲になりました。その上、様々な国からの留学生に話し合っ、異文化理解を経験することができるようになりました。それ以外、言うまでもなく、日本文化や日本人の性格などに関する知識も深まって、その知識を私の大学の専門にも利用できると思います。

フォーラムの週間を通じて日本の文化についてもいろいろ勉強になりました例えば、土曜日の観光のコースでまだ行ったことがない場所を観光機会がありました。先生ばかりでなくお茶の水女子大学の学生にも大変お世話になりました。

世界8大学合同国際学生フォーラムはやはり非常に良い経験になっていました。そのようなフォーラムには初めてなので、少し心配していました。しかし、プログラムは面白いだけでなく、非常に役に立つということがわかりましたので、今回その機会があったら、ぜひ参加しようという意欲になりました。

大学に入って以来、日本語の学習意欲が落ちてしまった私はぜんぜん日本の大学に留学したくなかった。人生の道路を決定した私はイギリスに修士課程を勉強するつもりだと、2年生のときに決めましたので、日本に留学の意欲もなく、日本能力試験 N2 も受けませんでした。日本語の成績は下がらないんですが、日本語の勉強意欲はぜんぜんありませんでした。しかし、今回のフォーラムは自分の興味がある日本東台震災やエネルギーのことなどなので、参加してみたいと思いました。それで、今回のフォーラムに参加して、日本に来るのは他の国のエネルギーのことや日本の東大震災のことについて知りたいだけだというのは言いすぎたことではありません。

元々、国際理解の興味を持っていた私は、今回いろいろなことを学びました。特に、原発の問題については、タイ人は他の国の国民と比べて、原子力に知識不足だと気がついて心配しています。しかし、問題が気づいたら、どのような、知識を発展できるのか考え始めました。他に、震災のことについて、知識を持っていない能天気な私は、今回、はじめて、地震体験に参加しました。この体験のおかげで、震災はどのような被害できるのかと分かるようになりました。震災当日の皆様も講演に来てくれて、感動しました。講演でも、いろいろな新しい情報ももらって、本当に興味深い話になりました。このような話をきいてボランティアになりたくなりました。最後に、他の国の友達にも会えて、異文化のことで勉強になりましたが、今回は日本人でも、米国人でも、ドイツ人でも、どこの国からでも、同じだと気がつきました。みんなは同じ面白いことで、笑っていて、同じ悲しいことで、泣きましたので、みんなは同じ人間ではないかと思いました。今回のフォーラムは「友達は国に関係ない、心のことだけ」と気がつきました。それで、このような友達ができて、今回のフォーラムからもらった宝物なんだと思います。

日本語がペラペラではない私は、今回のフォーラムに参加して、いろいろな伝えられないことがありました。この状態になってしまう私は本当に苦しくて、もっと勉強したい気になりました。今回の機会が与えても、自分のせいで、よく伝えられないことが増えてきて、日本語の学びがい分かるようになりました。日本語を勉強するのは成績のためではなく、大切なことは他の人とつながることと自分の感想をつたえることではないかと思えます。

それで、自分の勉強生活を見直して、日本語の学びがいや日本に留学することの意欲が増えてきました。機会があったら、もう一度、日本に戻って行って、一所懸命に日本語を勉強してみたいと思います。

今回のフォーラムに参加した後、友達もできて、新しい知識も得て、本当に喜んでいきます。このような機会は唯一です。それで、このような機会を与えてくれた御茶水大学の皆様にはありがたい気持ちが胸の中にいっぱい溜まっています。講演にわざわざ来てくれた講演者の皆様も、発表をわざわざ準備してくれた学生の皆様も、本当に有難いです。最後

には、今回の今回のフォーラムに参加して、本当によかったと思います。来年は、絶対に後輩のみんなに今回の経験を詳しく伝えて、フォーラムに参加した情報を報告するつもりです。

今回、日本に来たのはとてもいい経験だとおもいます。様々なことをもらいました。新しい友達ができただけではなく、実験から習いました。それに、私は自分の日本語が高めることを感じました。日本に着いた初日から、日本人のバディからお世話になっていただいて、とても楽しかったです。彼らは私を様々な所へ連れて行きました。それに、参加大学の友達と話して、交流がありました。私は各国についての知識をもらいました。実現の面、私は震災関連学外イベントに参加しました。震度の地震を体験したとき、怖いと感じました。私は被害者の感じを深く理解しました。ほかに、世界8大学合同フォーラムに参加したときは面白かったです。自分の研究を発表して、その時はとても緊張しました。発表したあと、間違があったところがあっても、皆さんは私にっこりして、なにも話しませんでした。私はとても感動して、自身があると感じました。それに、セミナーに参加して、学ぶことがたくさんあります。最後の日は東京ツアーです。そのときもすごく楽しかったです。写真もたくさんとりました。今回、私にとっていろいろなことを体験して、どんな日でも忘れられません。今回の経験を生かしたいと思います。また機会があったら、ぜひこのフォーラムに参加させていただきます。

世界8大学合同国際学生フォーラムに参加して、大変勉強になった。

まず、原発についての知識が以前より格段と豊かになった。今フォーラムに参加するために、自分で原発についていろいろな情報を集め、ひと通りの勉強はしたつもりであったが、今フォーラムに参加し、他国の原発の発展状況、各国民が原発に対して持つ意識などについてよく理解することができた。特にお茶の水女子大学の学生のすばらしい発表を聞かせていただき、日本の政府や市民たちの最新の意識が分かった。原発は安全面で問題があるが、経済面の利益、日本は資源が乏しいという問題から、将来日本は原発を発展させる可能性が高いことも分かった。

次に、国際理解が深くなった。参加する前は、外国人と交流することや、討論する機会が少なかった。しかし、今回をきっかけに、世界各国の学生たちと交流ができて、さまざまな文化に触れ、国際理解は深くなったと思う。例えば、参加者は世界各国から日本に来て、同じ教室で同じ課題について発表した。発表を通じて、各国の原発状況、エネルギー利用状況と新エネルギーの提案を知った。当初、私の頭には「国や肌の色の異なる人々がここに集まって発表することにどんな意味があるのか」という疑問が浮かんでいた。その答えは参加することで正答が得られた。「グローバル化」が答えだと思う。現在、世界中で、グローバル化は重要な潮流となってきた。インターネットやほかの通信手段によって、情報の交換や文化交流ができるようになってきた。そして、交通手段も比較的安くなって、いろんな文化を代表する人々が、自文化と異なる文化と直接ふれあい、その目で確かめ、視野を広げることもできる。時間がたつにつれて、こういった全世界的な文化交流がものすごい勢いで行われるようになった。これは決して、悪いことではない。いろんな国の人々に自国の文化についてもっと理解してもらい、自分も地球の裏側にあることを知れば、それで国際的な友情が深まると考えられるだろう。だが、“強い発信力をもつ”文化はそれでいいのだけれど、あまり外向的ではない文化はどうだろう。マスコミの興味を引き寄せる前に世界の勢いに流されてしまうのではないか。自国の文化を尊敬し、世界のほかの所々の習慣や考え方を理解できるようになることがグローバル化なのではないかと私は考えている。参加者とは日本語、或いは英語で、交流し、討論することで、相手の思想や考え方を理解することができた。つまり、日本語を介することで、外国人とのコミュニケーションが比較的簡単にできたのである。

最後に、今後のフォーラム運営について提言したいことがある。まず、テレビ会議は不可欠だと思う。フォーラムで発表する前に、テレビ会議を通じて、ほかの大学の学生と簡単な交流をすることができて、相手の考え方を理解する下地ができてきた。また、facebookやスカイプなどの通信手段を使うのも良いと思う。今中国はfacebookができないし、スカイプもあまり使われていない。しかし、次回以後のフォーラムに参加するために、中国の学生たちはどんな困難をも克服していかなければならない。帰国した後、できるだけ日本



の学生と常時スカイプなどで交流したほうが良いと思う。メールも重要な手段だと思う。私は帰国したあと、日本の学生とすぐ連絡して、その一週間の滞在期間の出来事について意見交換したり、将来の仕事について話したり、とても楽しかった。

末筆になるが今回、フォーラムに参加する機会を得られたことを非常に感謝している。関係各方面のご配慮にお礼を申し上げたい。もし再びチャンスがあれば、もう一回フォーラムに参加したい。

今回の8大学合同国際学生フォーラムのおかげで、始めて日本に行きました。短い一週間だったが、本当にいい思い出になった。日本人や留学生とディスカッションや話し合いをしたり、将来のエネルギーについて一緒に考えたりして、一生忘れられない一週間だった。ただ友達を作ったのではなく、自分の日本語学習についてよいと足りないところがわかって、そして他の国の学生との交流からは「グローバル化」という言葉の意味の理解も変わって、海外留学への関心も高まった。

第一に、中国人の日本語学習者にとって発音もきれいだし、ほとんどの漢字が親しみやすく、欧米の学習者に比べると、日本語を学びやすいと思う。しかし、自分の考えをしっかりと持っていない点はやはり知識が浅くて、本をたくさん読んでいないからだ。また、自分の聴解能力と言葉の表現能力は欧米の人より低くて、ちょっとまじめすぎ面白くないという感じがしたかもしれない。だから、中国の日本語教育では、日本語学習のほかに、学生の考え方や表現力や中身、面白みなどを養うことが必要ではないかと思う。もちろん、私たち自身もしっかり学び、多くの人との触れ合いを通して自分を高めて豊かにしていきたいと思う。

第二に、グローバル化時代を生きる私たちは日本語だけでなく、英語もしっかり身につけることが大切だ。フォーラムのおかげで、他の国の大学生との交流から、自分と違う文化を理解しあうこと、寛容な心を持っていることも大事だ。言語というものは人と人の交流の道具だとずっと思っている。また言語には民族の文化を表している。フォーラムの皆さんはそれぞれの母語を持ち、日本語か英語を使って交流ができた。やはり言語が基本的なものだ。国際人になるために多言語を身につけるのは基礎的なものではないかと思う。

第三に、始めて日本に行ったとき、日本人の公衆道徳に対する意識の高さに感心した。被災地の復興企画から、どんな困難に出会っても力を合わせ乗り越えられるチャレンジの精神も感じた。だからチャレンジが好きな私は将来日本に留学すると決意した。もっと長い時間日本にいて、中国と違ういろいろな表の様子だけではなく、裏の文化や歴史などを知りたい、研究したいと思う。

今回のフォーラムは意味深く、楽しかった。日本人の学生さんと先生たちは本当に親切にしてくれて、いろいろお世話になった。感謝の意を深く表したいと思う。また日本の友達に中国へ行ってほしいと思う。

私は今回が初めての日本行きで、初めての海外行きでありました。

韓国のプサンから日本の東京まで飛行機でほぼ2時間しかかからなかったもので着いた時にはここが他国たという気もまったくありませんでした。しかしここでの一週間、色んなところに行って色んな人々の話を聞いて新たに感じたこと、気づいたことが色々あります。

防災館での体験は津波と地震についての経験がまったくいなかった私にとって色々勉強になりました。韓国の自然環境は自然災害がめったに発生しないので津波や地震は別の世界の話だと思っていた私はもし家族や親戚、友達がこのようなことに遭ったらどうか想像してみました。当時にはすぐ涙が出るような気分になりました。そしてもしものとき災害が発生したらその対処法を身につけることができましたと思います。

そして震災被害地域の復興に取り組む人々にあって皆の暖かい心を感じました。今も続いている震災被害地域の復元には長い時間がかかると思います。私にはできることがないかもしれないんですが頑張ってくださいる皆を応援したいと思います。

また、ご存知のように今回のフォーラムには8ヶ国の大学生たちが集まりました。皆使う言葉も生活してきた環境も違うが同じところに集まって日本語で話し合いました。私もこのフォーラムに参加して皆と話し合うことができました。時々言葉の問題で話が通じないこともありましたがそれはそれで楽しいことでした。

お互いに自分の意見を交わすことによって相手側の国の文化をもっと深く知ることができたと思います。そして相手に自国のことについてもきちんと説明するためもっと知らなくてはいけないことがあると感じました。こういうことがありました。フォーラムのとき、韓国の「情」というものをドイツ人に日本語で説明できなくて大変でした。それで、もっと勉強して次には言葉の意味を100%伝えられるようにがんばるべきだと思いました。

世界化が進んでいる今、自分自身の感情と意見を確実に伝えられるのは母国語であると思います。それは相手側も同じであると思います。だから相手側をもっと理解するためには相手側の言葉をすこしでも分かる必要があると思うようになりました。

交流は言葉から始まると思います。外国語を勉強する際に必ず外国に行くべきだとは思いません。だけど直接経験したことと経験しなかったことには差があると思います。

私はもう遅くなったのかもしれませんが。だけど今年の新学期の始まりに経験したこのフォーラム参加によってこれからの外国語の勉強と研修のきっかけになったと思います。

最後にこのフォーラムに参加できてとてもよかったです。皆さん、どうもありがとうございました。

フォーラムのため日本に行って帰ってきたのももう10日くらい経ちました。夢のようです。フォーラム参加のため、韓国で準備していた時にはこんなに面白くて有意義な時間になるとは思ってなかったですが、今は「参加して本当によかった」と思っています。フォーラムに参加して8カ国の原発・エネルギーについての話を聞く機会ができたこと、日本の被災者の話を聞かれたこと、フォーラムのため一生懸命頑張ってくれたお茶大の先生や学生たちをみて感動したこと、そして8カ国のいい友達ができたこと…一生忘れられないいい経験ができました。

日本に来る前には正直8カ国の原発・エネルギー事情どころか韓国のエネルギー事情もよく分かりませんでした。ずっと原発推進の政策を打ち出していると思っていましたが、新政権からは原発より再生エネルギーに力を入れるという新しい政策を打ち出していたと聞いて驚きました。そして日本震災地の状況についても「もう大丈夫だろう。」と思っていましたが、実際フォーラムで復興のためにまだ頑張り続けている皆さんの話を聞くと胸が痛みました。本当に私にできることは何かあるのか考える時間になったのです。東日本大震災は日本だけの問題ではなく世界からも最後まで関心を持ってケアしなければならないと思います。被災者をケアしてあげて、これからこんな大惨事が起きないように注意すべきです。でもまだ十分ではない状況の中からも復興のため頑張っている被災者の皆さんの話を聞くと、その力ならもうすぐ立ち直れると思われました。

そして今回のフォーラムに参加していい友達と、かけがえのない思い出がいっぱいできたことがうれしいです。日本に来る前は日本人・中国人以外に親しい外国の友達がなかったので「うまく話せるのかな、なかよくできるかな・・・」と思いましたが、お茶大のみんなが積極的に全員仲良くなれるよう頑張ってくれたので今でもあのときの写真を見て笑いながら振り替えることができました。迷惑をかけたこともいっぱいですが、できればまた先生と学生みんなで日本でまた会えればと思います。^ 3 ^

こんなにいい友達がいっぱいでき、新しい言語を勉強しようと思ってドイツ語に挑戦していますが難しすぎてまず日本語と英語だけ頑張ろうと思っています。ですがみんなに会いたいこの気持ちはどんどん強くなってきて来年にはヨーロッパに旅行へ行行くつもりです。ヨーロッパにいるみんなから会う約束もしました。ヨーロッパの後は、タイ・中国・アメリカ・・・世界旅行という私の夢が思ったより早く叶えるそうで本当に嬉しいです。そしてできれば一人ではなくお茶大の友達とか他の国のみんなを誘って一緒に行きたいと思います。もし一緒に行きたい方がいたら連絡してください!!!

韓国に帰ってきてても余韻が残っていて震災地の記事を探して読んだり、Facebookでみんなとずっとメッセージを交わしたりしています。本当に迷惑をかけたこともいっぱいですが、いつかまた会ってください!皆さんにまたお会いできますことを心から祈ります!

アレクサンダー・トカレフ（ボン大学）

わたしは地球環境研究の専門家、科学者などではありません。ですが、傍観者にはなりたくありません。積極的に、フォーラムの輪に入りたかったのです。フォーラムに参加できて大変光栄です。いい勉強になりました。ですが、勉強というよりも、国際的な経験になりました。我々はみんな同じ地球に住んでいて、人類全体は一つです。フォーラムは、地球と運命を共にする人間に、深い意味を持っていると、わたしは考えています。他の国々のみなさんはエネルギー・地球環境問題についてどう思うか、どのような解決方法を提案できるか、わたしは聞きたかったのです。フォーラムのおかげで世界のエネルギー話題に関してさまざまなことを学んで、見聞を広めることができました。

重要なのは、地球は一個しかないことに意識を向けることだと思います。これまで以上にグローバル化が進む時代において世の中の出来事は相互に関係しています。ある国での出来事は必然的に地球全体に影響を及ぼしうるものです。様々な国からの16人とお茶の水の30人の学生の参加者が経験や知識を共有して、今重要な洞察や、新しいアイデア等を、それぞれの母国に持ち帰って、それを自分の住んでいる町のみなさん、自分の通っている大学の学生へ語ることが出来るようになります。全世界からの若者がエネルギー問題について交流ができるように、このフォーラムを設立された主催者、森山新先生と様々な形でお手伝い頂いた吉澤真由美先生に深く感謝申し上げます。どうもありがとうございました。

日本に来たのは初めてですが、実はずっとまえから日本の文化や歴史などに深い興味がありまして、実際に来てみて、日本が益々好きになりました。新しい友達ができたと、大事な思い出が作れたし、出来ればまた来たいです。

外国の原子力政策について雑誌記事などを読んだことあるが、その記事の内容は最も知りたいことがよくではなかった。それは、筆者が記者だからと思う。フォーラムの参加者の皆様は大学生で、学生として状態が似ている。参加前、同年輩の思考を知りたいと思ったが、本や雑誌から全然分からなかった。そして、フォーラムの参加者の発表を聞いて本当に良かったと思う。現在の世界には様々の問題があつて状況が大体同じと思う。だから、交換が最も必要だ。発表のとき、政客や外交官は政情などに注意しなくては行けなくて意見をよく出せないが、学生は自分の考えを述べられると思う。

さらに、学業に最も役に立っている。原子力は世界の問題で、どんな国でもそれについて考えなくては行けない。フォーラムのため、ほかの国の参加者と意見を交換できたし、ドイツをほかの国と比較できたし、原子力についてドイツの問題点を良く分かった。今後は外国の方法などについてもっと知りたいし、日本とドイツの原発を研究にしたいと思う。

フォーラムに行くときは、「それは私にできることだ」と思ったが、今は「私にできることがたくさんある」ということが分かった。フォーラムに参加して、本当に良かったと思う。参加させてどうもありがとうございます。

今回、お茶の水女子大学醜態で行われた学生フォーラムに誘ってくださって誠にありがとうございます。8ヶ国の学生を交えたこの国際的な催しはとても興味深く、私にとって新しい発見と刺激をもたらしました。

こんな多国籍的な環境にいたことがないということもあり、最初はコミュニケーション取り方に惑いましたが少しずつ皆様と打ち明けて、共通の話題を見つけるのに時間がかかりませんでした。相手の国籍、素性、由来を知り、それを理解し、自国の文化と照らし合わせて初めて自分の祖国の色んな点を考えさせられ、ポーランドの特異性を自慢する機会もありました。今回のフォーラムのテーマのひとつであった原子力発電所という点について勉強になって、事前に予備知識を十分準備した上で各国の原子力事情の現状を通してその考え方を一つ一つ観察するというのも、斬新な試みと感じました。

フォーラム中によく「国際交流」という言葉の定義が問われたのですが、それを違う国の人たちの間に行われるアイディア・思想の交換として捉えるのならば、今回の集まりはその目的を見事に果たしたと思います。今まで知らなかった考え方・学び方に触れ、それを自分の土俵で広めたいという意欲はわきました。また、長期留学への関心がかなり高まりました。一番の理由は、自分の研究の対象である日本をもっとじっくり知るためなのですが、それ以上に多様な、個性に含んだ環境に過ごした経験はとても刺激的で、自分とまったく違う他人との交流から引き出された大胆な発想こそが自分の中の発見につながると思ったからです。

今回仲良くさせていただいた皆様と意見をぶつけ合うだけではなく、意思疎通も出来て、私は国境や国籍という隔てのもろさを知り、そしてそこから生まれる多面性・多様さを評価できるようになりました。この貴重な経験をさせていただいて、私はまことに感謝しています。

今年の一月上旬に私はワルシャワ大学を代表してお茶の水大学のフォーラムに行くことになりました。東京への出発までこのことにずっと悩んでいました。自分の日本語能力は足りないし原子力発電や代替エネルギーについて知識が少なく質問には答えられません。色々な心配しました。心を落ち着けるため去年同じフォーラムに参加した先輩と相談しました。すばらしい経験で、参加してよかったと先輩が言いました。今、フォーラムが終わったあと私も同じ感想を持っています。

フォーラムで参加したのは世界8大学から集まった人々でした。実はこのような国際的なレベルの集まりと経験は私の初めてでした。皆が日本語を勉強しているけれども理解できるかどうかということに興味を持っていました。お茶大学の学生以外皆にとって日本語は外国語で、能力のレベルは同じではありませんでした。そして文化の違いがたまに邪魔になりましたけれども結局に皆がお互いに伝えたいことを理解できました。最初驚いたのは皆が英語の代わりに努力して日本語で話し合いました。将来にこのようなイベントに参加する機会があったら、喜んで加わります。

長い期間滞在の留学したことがありませんけれどもフォーラムのおかげで少しだけ留学生の生活を体験しました。大山寮に住むことや毎日お茶大学で行われた講義に参加することはもっと長く続けると願いました。もちろん留学のは楽しいことだけでなく用事と心配もたくさんあります。それなのに留学をしてみたいと思います。留学から得られる利益はたくさんあります。例えば、新しい人と交流して自分の性格を発達することや能力を伸ばすことです。

このフォーラムのあと色々なありがたいことがあります。一生に忘れられない経験で、今までフォーラムの影響を感じています。もし来年にフォーラムは開催したら、ぜひ後輩たちに参加を勧めるつもりです。フォーラムを催すため努力した皆さんとフォーラムに参加した皆さんに心から感謝します。



I had a great experience participating in this year's Student World Symposium at Ochanomizu Women's University. Not only was I given a prime opportunity to practice and improve my Japanese, but I also got a taste of what it might be like if I were to study abroad in Japan later in my college career. After returning home from the symposium, I definitely think that my views concerning world energy problems have changed. I think that the biggest change to my mindset on these issues has to do with my personal level of open-mindedness. I think that compromise and cooperation will be a key tool for future world leaders in settling these many issues. I used to believe that there was always a best answer, and that the biggest struggle in complex problem solving was finding which option was the destined correct route. Now however, I understand that there are no straightforward answers hidden from plain sight. In order to solve complicated problems, it is vital that we remain unbiased, and accept information and opinions from all available sources.

The various workshops, seminars and lectures that took place in the World Forum were very diverse, worked together well to create a united message: the energy problems of today need to be successfully addressed before it is too late. Since the 2011 Tohoku Tsunami and Nuclear Disaster was an event both relevant to the forum topic, and historically and emotionally important to the Japanese people, its usage as an issue of focus during the symposium worked well to fulfill the forum's goals. As it is a recent occurrence, the 2011 disaster helped to place the discussion topics in a more tangible context. I think that after experiencing these workshops, I will be more sensitive to the emotional distress that people go through during natural and nuclear disaster events.

お茶の水女子大学のシンポジウムから帰ってきた後、そのシンポジウムで習ったことは私の意見を変えさせたと感じました。特に気になったことは「コミュニティー」と言うことでした。お茶の水大学のシンポジウムに参加する前に原子力についての色々な話が出てきて、自分のコミュニティー、他のアメリカも含め、世界中のコミュニティーを分裂させた。ですが、シンポジウムの皆さんと会ったり話したりしてからそのエネルギー問題をもっと共同的に見て、分裂するよりも、一緒に考えることが大切だとわかりました。シンポジウムで習ったことの一番大切なことだと思います。

シンポジウムの準備をしていた間に、話をした皆さんは色々な意見を持っていました。父の家族は石炭に頼る場所に住んでいて、ヴァッサー大学は原子力発電所近くにおいて、そして自分の家は製油所の隣にあります。エネルギー問題の話をしていた時に、家族や友達や知らない人の安心を一つ選ばなければならないことになった感じがしました。とても難しく辛く感じました。

なのに、日本に行くすぐ前に、ヴァッサーの近くの原子力発電所の反対の活動者と会えるようになりました。北ニューヨークのアルバニーと言う町からきて、ワシントン D.C.までデモのために 300 マイル以上を歩いていました。大学の隣の町に止まっていた時に、福島の救護活動のボランティアをした大阪の男の人のために通訳できることになりました。そのプレゼンテーションの後に、オクラホマ州のネイティブアメリカンの人もポーキプシーの人と会えることになりました。皆さんの意見に違いが多かったのに、皆さんは本当に大切にしていた考えを伝えることができました。

そして、お茶の水女子大学に行きました。お茶の水女子大学の学生も、陸前高田の人たちと会えたことについてとても感謝していました。私にとっても、ヤギシタアカリさんとサイトウミサキさんの「Justice」とエネルギー問題についてのプレゼンテーションは本当に印象に残りました。アメリカで色々な意見の違いをちゃんと見るのが難しい時に、あかりさんとみさきさんと話したことを考えるとその問題の解決することができるように思います。

以上、このシンポジウムに参加したことで、世界的な視点を持つことができるようになりました。これは、非常に大切なことだと思いました。シンポジウムで得たことを、できるだけアメリカの皆さんに伝えるようにしたいと思います。2週間後にニューヨークの原子力プログラムについてのトークに参加する予定です。いろいろなことについて議論できるように一生懸命頑張ります。